PRESS CONFERENCE

2018.11.05 [mon.]

日本が世界へ誇るゴルフコースへ

ザ・カントリークラブの成功を奇蹟と称賛され、伝統的なコースでも全米オープンなどのメジャー大会を開催できることを証明した、“レストレーション ”の名匠リース・ジョーンズ氏。世界レベルのトーナメントコースを知り尽くす松山英樹プロ。
二人の天才が出会うことで、まさに国際水準のトーナメントコースへと変貌を遂げました。
“距離を伸ばして難度を上げる時代から、バンカーや池など、ハザードの形状によって難度を上げる時代へ。”
すべてのバンカーは一から見直され、グリーン周辺の造形や池の形状などにも多数の変更が加えられています。
一見したところ変化を感じることはなくとも、プレーを重ねることでその戦略性の高さは実感されることでしょう。

Our Club, Our Course.
Taiheiyo Club

御殿場コースを全面改修

日本のベストコースの一つを、世界に誇れるゴルフコースへ。

心の動きもショットを左右する。頭を使ったゴルフが必要に!

御殿場コースがどのように変わったのか、完工したコースをラウンドしながら感じたのは、改修前以上にそれぞれのホールが周囲の自然環境に馴染んでいて、さらに言えば、コース全体も富士山の眺望が開けたホールが増えたからか富士山麓の大自然に溶け込んでいることだ。

プレー面ではホールを重ねるにつれ、“このコースは頭を使って攻略ルートを自分なりに考えて打っていかないと簡単にダブルボギー以上を叩いてしまう”と気づき始めた。特にミドルアイアンを使う距離以上の第2打地点からは、ただ残りの距離に合わせて目一杯のクラブでグリーンを狙うのではなく、1打1打、次のショットをどこに打つのがベストかを考えることが重要だと思うようになった。

改修後の御殿場コースはグリーン周りの難度が著しく増している。4番、10番、12番、13番のグリーンは一部拡張されたが他のホールはオリジナルのグリーンのまま周囲のすべてが改修され、同じサイズのグリーンのままでもフェアウェイから見ると、小高く小さくなったように目に映る。その心理が作用してか、なかなか積極的にピンを狙っていけないし、思い通りのスイングができなくなる。その結果はミスヒットが多くなる。

プロのように高い弾道のすぐに止まるボールを打てるなら別だが、グリーンにオンさせることができたとしても、ピンポジションによっては容易に3パットする恐れがある。それ以上に、ミスヒットによるダメージは大きい。ガードバンカーはボールが転がって入りやすくなっている。バンカーは逃れても、深いラフや短く刈り込まれた下り斜面があったりする。そのことを理解してフェアウェイウッドの距離でもユーティリティウッドで花道やバンカーの手前にレイアップしてアプローチショットをするようにしたら、パーというご褒美をいただけることが何度かあり、考えてプレーすることの感激をいつも以上に味わえた。

トーナメントコースとしてだけではなくメンバーにも配慮されている改修

今回の改修の趣旨は、「御殿場コースを国際水準へ」ということで、ティーボックスのセンターの位置とサイズと向きが見直された。特にトーナメントティーとして使用するティーボックスは拡大され、ランディングゾーン周辺のハザードは確認できるようになっている。それはすべてのティーボックスに当てはまる。トーナメントティーから280ヤード付近のドライバーショットのランディングゾーンはフェアウェイが絞られていたり、フェアウェイバンカーなどのハザードなどが設けられている。

各ティーボックスのセンターの位置と向きは、既に周囲の自然に溶け込んでいるので気づきづらいが、実際は見た目以上に変わっている。レディースティーもトーナメントティーも、よくありがちな取って付けたような小さなものは一つもない。すべてのティーボックスをトーナメントティーから280ヤード地点のI.P.ポイント(ティーショットのランディングエリアに測量する上で想定する地点。コースレート査定時に設置される基準点。従来は250ヤード)に正対させてあり、ティーボックスに立つとホール全体が広々として見える。カート道路からティーボックスにかけてはほぼ平面か僅かな距離のなだらかな斜面で、穏やかなリズムでティーアップできる。

Hole No.2

Hole No.5

Hole No.13

Hole No.16

Hole No.18

そういうことと、トーナメントティーから280ヤード付近は厳しい状況になっているものの、その手前と前方のフェアウェイは広く、ティーショットは構えやすくて打ちやすい。どのティーマークを使用してもトーナメントティーから280ヤード付近のハザードは確認でき、第2打以降もグリーン周りの状況を見渡すことができるので、自分なりの攻略ルートを考えてイメージしやすい。

確かにトーナメントコースとしての難度が増したことは一目瞭然だが、メンバーに対する配慮もなされていることも実感する。例えば、池が絡む4番や14番、17番、18番などには池の横にかなり広いチッピングエリアが設けられている。チッピングエリアは短く芝が刈り込まれ、深いラフからのような難しいショットは要求されない。キャリーで池を越える自信がない場合には、そのエリアから寄せて1パットも十分可能になる。ティーマークが増えて使用ティーの選択肢が増えたこともありがたい。従来のトーナメントティー、バックティー、レギュラーティー、フロントティー、レディースティーに加え、ミドルティーが設けられ、計6ヶ所ある。これは、メンバーの年齢層を考慮してリース氏が提案した結果で、私のように、“レギュラーティーからだとちょっとキツイけど、そうかといってフロントティーから打つのには抵抗がある”というゴルファーのために用意された。どのティーを使用するのかで攻略ルートも変わるので、いろいろと試してみる価値もある。

ゴルファーにとって重要な施設である練習場についてもリース氏はこだわった。打席及びショートゲームエリアも国際水準の施設になっている。一般ゴルファーが使用する打席のマット類はアメリカから取り寄せ、ゴージャス感が漂う。打席間の間隔も広くなり、伸び伸びとクラブを振っていける。マットの打席の一段下と一段上は緑の芝が広がり、上のエリアはトーナメントウィーク用に十分なスペースが取られ、ギャラリーがより練習風景を見やすいよう配慮されている。

打席練習場奥のショートゲームエリアも改修され、ラウンドで求められる様々なアプローチショットやバンカーショットの練習や調整を十二分に行えるようになっている。

リース氏は「トーナメントプロにもメンバーにも、ここで一日中練習していても飽きのこない、満足できるエリアが完成した」と胸を張る。ラウンドだけでは絶対に勿体ない。

Hole No.18

御殿場コース「ホールバイホール改修ポイント」

リース・ジョーンズ氏によって国際水準へ改修された主な変更点

YARDAGE

Tournament	7,327	← 7,246
Back	6,902	← 6,869
Regular	6,539	← 6,484
Middle	6,194	新設
Front	5,794	← 6,138
Ladies	5,305	← 5,600

HOLE 1
Par 4

T=465 B=445 R=415 M=409 F=395 L=335

●ティーインググラウンドを右方向へ移動
●Gバンカーを再造形、およびグリーン方向へ移動
●グリーン左側にチッピングエリアを拡張

HOLE 2
Par 4

T=435 B=395 R=385 M=355 F=345 L=315

●ティーインググラウンドの再造形および拡張
●FWバンカーを再造形、左の池も拡張
●ガードバンカーを一新、奥のバンカーをハロー(窪地)に変更

HOLE 3
Par 5

T=565 B=530 R=515 M=500 F=480 L=435

●ティーインググラウンド後方へ拡張し距離を伸張
●ランディングゾーン左にFWバンカーを新設
●グリーン左バンカーを変更し、チッピングエリアと融合

HOLE 4
Par 3

T=220 B=195 R=180 M=158 F=130 L=126

●フルバックティーを後方へ拡張
●グリーン手前・左の池をグリーン方向へ拡張
●グリーン右奥を86㎡拡張

HOLE
5
Par 4

T=400 B=385 R=370 M=350 F=330 L=315

●左側の林帯を伐採し、富士の眺望が大幅に改善
●ガードバンカーを再造形し、グリーン方向へ移動
●フェアウェイの不自然なラインを修正および拡張

HOLE
6
Par 5

T=540 B=525 R=510 M=490 F=450 L=425

●ランディングゾーン左側にFWバンカーを新設
●Par5/Par4:どちらの設定も可能なレイアウト
●ガードバンカーを再造形および新設

HOLE
7
Par 3

T=178 B=157 R=152 M=140 F=130 L=127

●今回の改修では唯一、グリーン全面を改修
●ガードバンカーの全てを一新し、左側にはチッピングエリアを設置
●グリーン右奥の林帯を伐採し、富士山の景観を改善

HOLE
8
Par 4

T=447 B=415 R=400 M=375 F=350 L=310

●ティーインググラウンドを再造成、IP方向へ修正
●敢えてバンカーを作らず、グリーン左側を大きく削り
難度の高いチッピングエリアへと変更

HOLE
9
Par 4

T=465 B=425 R=410 M=385 F=360 L=305

●ティーインググラウンドを左後方へ拡張し距離を伸張
●距離のでないプレーヤーのために、フェアウェイを手前に拡張
●グリーン右サイドのチッピングエリアを拡張

HOLE
10
Par 4

T=401 B=385 R=365 M=355 F=320 L=280

●IP地点のバンカー変更により、プロ・アマともに落とし
所を問われるティーショットへ
●グリーン右奥を25㎡拡張

HOLE
11
Par 5

T=540 B=520 R=505 M=485 F=452 L=445

●FW左にバンカーを追加し、ショットバリューが向上
●Par5/Par4:どちらの設定も可能なレイアウト
●全てGバンカーの再造成、左手前はグリーンに移動

HOLE
12
Par 4

T=451 B=430 R=385 M=374 F=317 L=312

●フェアウェイ左にバンカーを新設、右バンカーを2個に増設
●グリーンを22㎡拡張
●右手前Gバンカーの一部をチッピングエリアに変更

13
Par 3

T=203 B=192 R=173 M=152 F=145 L=130

●ティーインググラウンドを拡張および再造形
●グリーン左奥を23㎡拡張
●Gバンカーを再造形し、左奥にGバンカーを新設

14
Par 4

T=422 B=390 R=365 M=345 F=338 L=315

●グリーン手前の池を左奥方向へ拡張
●フェアウェイを大幅に拡張
●右FWバンカーをグリーン側に移動し2箇所に増設

HOLE 15
Par 4

T=378 B=368 R=355 M=342 F=300 L=290

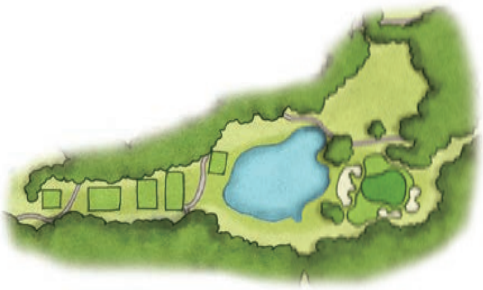
●トーナメント時にはワンオンチャレンジ可能
●ワンオンのためのターゲットバンカーを追加
●グリーン周辺のチッピングエリアを拡張

HOLE 16
Par 4

T=462 B=440 R=400 M=355 F=343 L=310

●フェアウェイ左バンカーを再造形、および新設
●すべてのGバンカーを再造形
●グリーン手前のアプローチエリアを再造形

HOLE 17
Par 3



T=230 B=195 R=164 M=144 F=139 L=115

●ティーインググラウンドの拡張および、左側の林帯の一部を伐採し、富士山のビューバランスを改善
●Gバンカーの再造形、グリーン右側にバンカーを新設

HOLE 18
Par 5

T=525 B=510 R=490 M=480 F=470 L=415

●FWバンカーを再造形、「考えさせるティーショット」へ
●グリーン左のバンカー群の再造成
●右の池を8ヤード伸張、奥のチッピングエリアも拡張

太平洋クラブ御殿場コースの監修にあたって

PGAツアープレーヤー 松山 英樹

米ツアーで数多くの著名なコースで、トップ選手と凌ぎを削る間に、憧れのオーガスタ・ナショナルや、メジャートーナメントを開催するコースが母国である日本にあれば、どれだけ素晴らしいか。また、どうしたら日本のコースセッティングを世界レベルへ引き上げることができるのか。そんな想いが強くなっていきました。

太平洋クラブ御殿場コースは、「三井住友VISA太平洋マスターズ」で、アマチュア時代と2016年の2度優勝を飾った、思い入れのある好きなコースです。その御殿場コースを私が監修するというお話をいただいた時、世界的設計家のリース・ジョーンズ氏の改修でどのようになるのか、また、自分の意見が他のツアープレーヤーにもどう影響するのか、ワクワクしました。

御殿場コースの設計は、元々素晴らしいです。ところが道具の進化もあり、ハザードはあっても気にならず、プレッシャーを感じないところが多かったので、この機会に、プロゴルファーとしての目線で見直し、将来、海外メジャーに通ずるようなトーナメントを開催しても恥ずかしくないコースを、という想いで意見をたくさん述べさせていただきました。

また、御殿場コースは標高が高いので、普通のコースよりも3%～5%ほど飛距離が出やすいと思います。そうした時に、Par5のホールをPar4にセッティングすることで、これまでよりもプレッシャーがかかり、スコアにも影響すると思います。

実際にジョーンズ氏、太平洋クラブ韓俊社長と打ち合わせさせていただき、マスタープランのチェックはもとより、改修中も進捗状況を連絡いただき、私が海外を転戦している間でも逐一、確認させていただくなどして、納得のいくコースに仕上がったと思います。私は今週、2年ぶりに「三井住友VISA太平洋マスターズ」に出場します。これからの日本のゴルフシーンを牽引する、生まれ変わった太平洋クラブ御殿場コースでのプレーを是非観に来てください。

4番ホールPar3

改修前 203ヤード→改修後 220ヤード

打ち下ろしで風がすごく回り、そこに池が絡むホールです。ティーグラウンドを手前にして、短い番手で打たせて難しくするのはアリです。トーナメント時にはティーを右手前にしてピンを左に切ることで、寄せるのがタイトになって難しくなります。

その後の改修結果は、松山プロの意見に合わせて、トーナメント時にはティーを右前にして、短い番手でグリーンを狙わせるのと、ティーを後ろに伸ばして距離を長くしてグリーンを狙わせるのと、日によってセッティングを変えることにしました。池をグリーンに近づけ、グリーン右奥は拡張。グリーン奥のガードバンカーは2つに。ターゲットが分かりやすくなると同時に、ショートすると池へと転がりやすくなり、難度が上がりました。

6番ホールPar5

改修前 540ヤード→改修後 540ヤード

Par5だと4打でバーディーを取ることを考えたら、グリーン右手前の池は気になりませんが、Par4にすると3打でバーディーを取らなければならないので、池が効いてきます。すごく楽しみなホールになります。

今回の改修では距離は変えず、松山プロの意見を受けてトーナメント時にティーを前にしてPar5→Par4（510ヤード）にして、難度を高めました。ランディングゾーンの左にフェアウェイバンカーを新設。グリーン左のガードバンカーを2つにして、その手前にバンカーを1つ増設しました。池は2つあるうちティーインググラウンド側の池を埋めました。

8番ホールPar4

改修前 440ヤード→改修後 447ヤード

マスタープランは、フェアウェイの木を切って、昔の2グリーン跡地を復元してグリーンを右に移設してタイトにする。その分9番ホールのティーインググラウンドを左後ろに40ヤード伸ばすというプランでした。ただし、グリーンは左のままでも傾斜があって十分難度が高く、簡単にバーディーが取れるホールではありません。8番グリーンが右になってタイトになって、それで9番も距離が伸びて難しくなると、難しいホールが続いて選手としては休まる暇がないようにも思います。フェアウェイの木も残したほうが良いです。

その後の改修結果は松山プロの意見を尊重し、難度が高い8番は従来のまま左ドッグレッグホールとし、フェアウェイの木もそのままとしました。加えて、グリーン左をスプーンでえぐったように削って急斜面にして、プレッシャーを高めました。

9番ホールPar4

改修前 440ヤード→改修後 465ヤード

9番はアゲインストになることが多いので、グリーンの奥行きを考えたときに、40ヤード伸ばすとセカンドショットは私でも220ヤードは残るので、タフすぎると思います。

その後の改修結果は、松山プロの意見の通り、距離は見直して25ヤード延伸としました。

10番ホールPar4

改修前 401ヤード→改修後 401ヤード

もともとはフェアウェイ右ラフの木を切ってキャリーバンカーを新設する、というプランでしたが、木を切ってしまうとプロはドライバーで打てるので、平凡なホールになってしまいます。木を残しつつキャリーバンカーをティーインググラウンド寄りに置けば、ティーショットの落としどころが難しくなると思います。

松山プロの意見をもとに、右ラフの木は切らず、新設のフェアウェイキャリーバンカーはトーナメントティーから242ヤードで届き、255ヤードで超える位置に設置しました。そのため、ティーショットをどの番手で打つかを考えさせる（悩ませる）ホールになりました。

11番ホールPar5

改修前 537ヤード→改修後 540ヤード

グリーン右手前の木がプレーゾーンに出っ張っているところを伐採する、というプランでしたが、フェアウェイの木がスタイミーになるのを避けてティーショットを左に置くと、このグリーン右の木があることでターゲットが狭く見え、プレッシャーになって難しいので、今のまま木は切らないほうが良いと思います。また、グリーン左に池を新設するというプランもあり、そうなれば難しくなってめちゃくちゃ面白くなると思います。

その後の改修結果で、松山プロの意見を参考に、トーナメント時はPar5→Par4（505ヤード）にセッティングを変更しました。また、池は作らない代わりに、グリーン左手前のバンカーを作り直して難度を高め、とくにセカンドショットでグリーンを狙う際のプレッシャーを高めました。

15番ホールPar4

改修前 378ヤード→改修後 378ヤード

ワンオンチャレンジホールにするプランでしたので、グリーン手前をフェアウェイにすれば、ワンオンする可能性が上がって、より面白いと思います。

松山プロの意見を受けて、その後の改修結果はトーナメント時にティーを300ヤード地点に設定する日を設けて、ワンオンチャレンジを採用しました。グリーン右手前の法面にバンカーを新設したことで、このバンカーがワンオンチャレンジする際に面白い存在になります。

16番ホールPar4

改修前 462ヤード→改修後 462ヤード

グリーン左サイドのガードバンカーを拡張してグリーンに近づけ、その左にハロウ（窪地）を作り、グリーン左のエッジを削る、というプランでした。グリーン左にハロウを作るのなら、傾斜が活きてくるのでグリーンエッジは削らなくて良いと思います。削ったら2016年大会の最終日のピンポジションができなくなり、意味がなくなってしまいます。

その後の改修結果は、松山プロの意見を採用し、グリーン左のエッジは削らず、現状のままとしました。

Taiheiyo Club

Our Club, Our Course.

SPECIAL THANKS

Rees Jones / Hideki Matsuyama / Bryce Swanson / Photo:Taku Miyamoto(TM Photolinks) / Text:Susumu Hatsumi